神秘学ポエジー 風遊戯 photopos 118

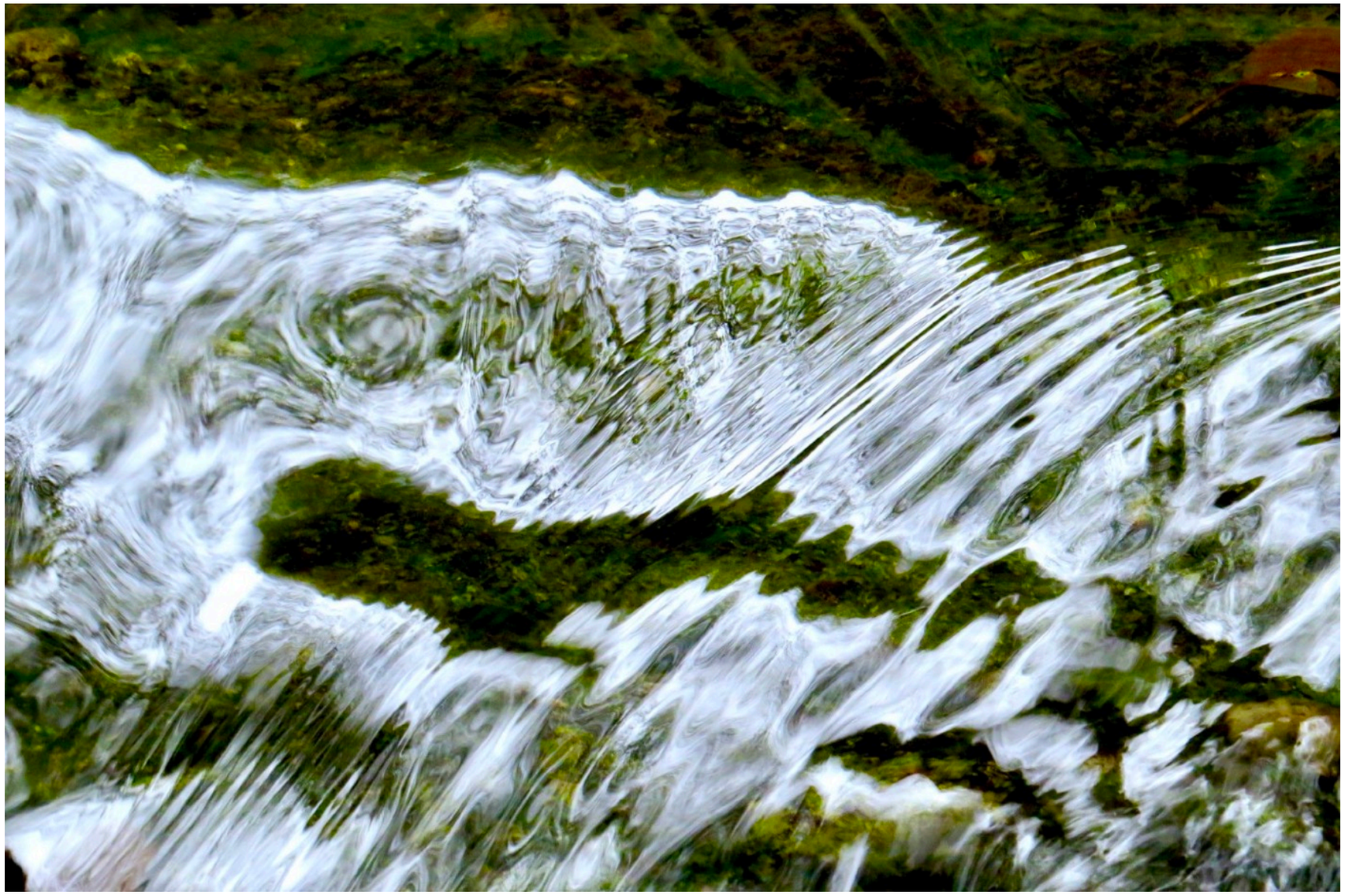
【神秘学ポエジー～風遊戯 第 236集】 photo ヴァージョン

photopos 2926-2950

《2022.9.12～ 2022.10.6》

神秘学遊戯団

☆photopos-2926　　2022.9.12



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

死者はいるか
死者はいない
けれど
いないからこそ
たしかにいる

（死者に祈り）
（死者に祈られ）
（死者と対話する）

死はあるか
死はない
けれど
ないからこそ
たしかにある

（死を想い）
（死と親しみ）
（死へと生きる）

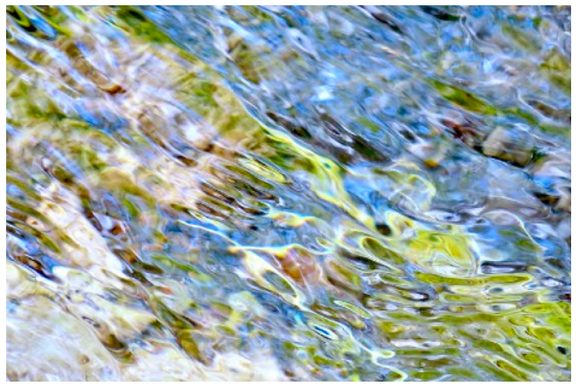
過去はあるか
過去はない
けれど
ないからこそ
たしかにある

（過去を呼び）
（過去に語らせ）
（過去と対話する）

未来はあるか
未来はない
けれど
ないからこそ
たしかにある

（未来を想い）
（未来へ祈り）
（未来へと生きる）

☆photopos-2927　　2022.9.13



※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

見ているとき
聞いている

聞いているとき
嗅いでいる

嗅いでいるとき
味わっている

味わっているとき
触れている

触れているとき
考えている

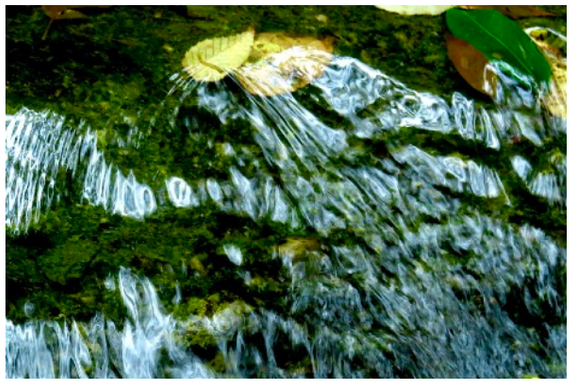
考えているとき
語っている

語っているとき
踊っている

踊っているのは
わたしだ

わたしはいま
生きている

☆photopos-2928　　2022.9.14



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

傷を癒やすには
方法がある
対処療法もあれば
免疫を高める方法もある

けれど癒やされる傷もあれば
決して癒やされない傷もある
忘れることのできる傷もあれば
決して忘れられない傷もある

傷つくことから
逃げつづけることも
それはそれで
ひとつの方法だが
逃げることで
あらたな傷を生むこともある

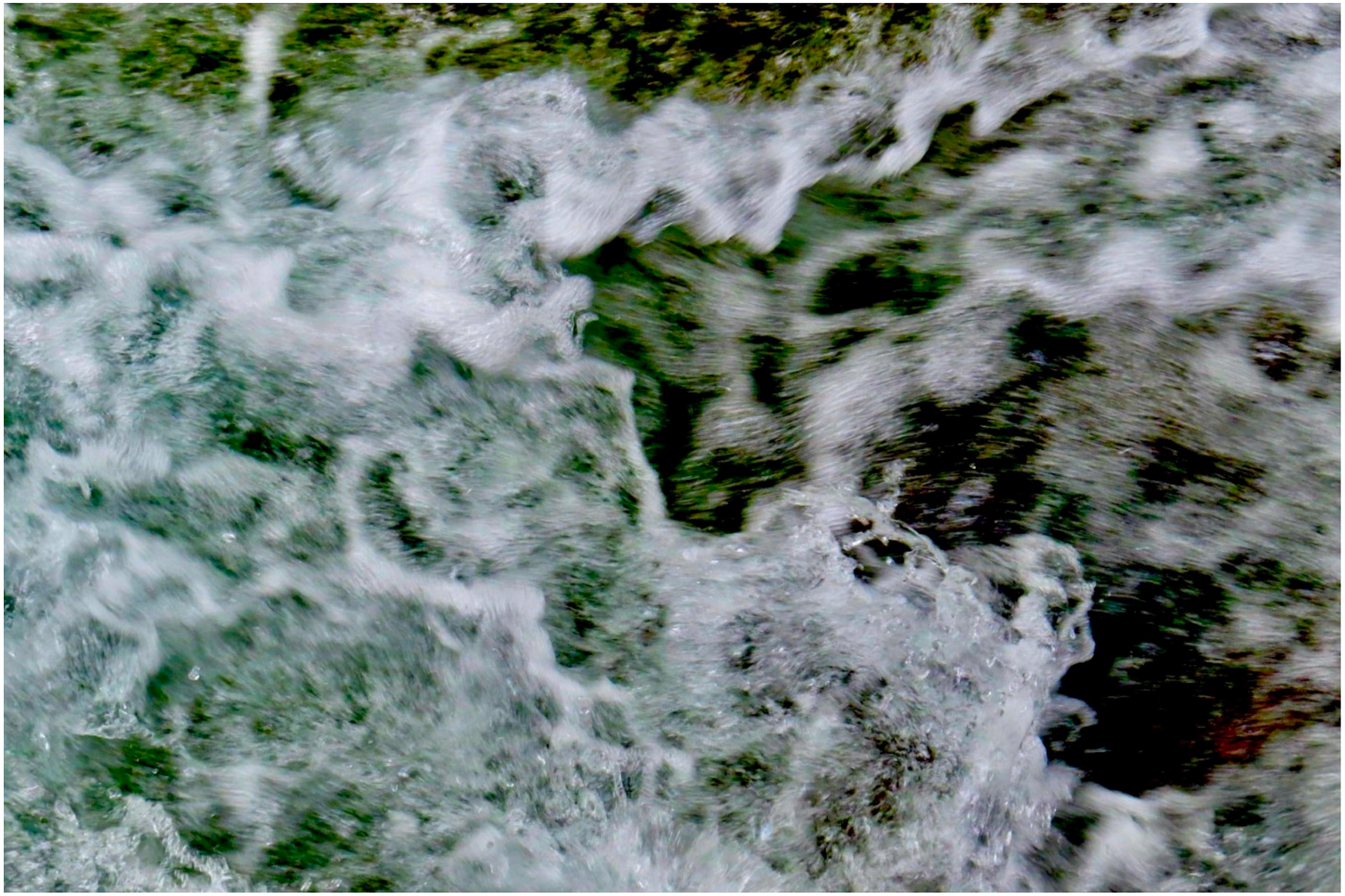
たとえ記憶から消そうとしても
それが不意に照らされると
影は魔物のように
襲いかかってくるのだ

どれひとつとして同じ傷はなく
どれも比べることはできないけれど
傷つくわたしは同じこのわたし

傷つくわたしがいて
そこから逃れられず
傷つくじぶんを
ただ見ているじぶんがいる

傷とはなんだろう
傷つくじぶんとは
いったいだれだろうと
傷とともに生き
傷の意味を問いながら

☆photopos-2929　　2022.9.15

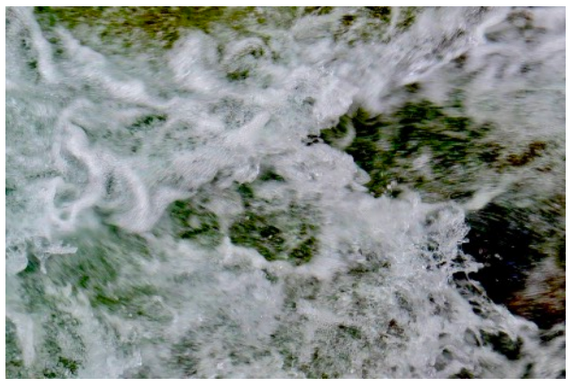


時は
見えない
風のように
きまぐれ
偶然をあそび

時は
渦巻く
水のように
永遠と刹那を
往還し流れ

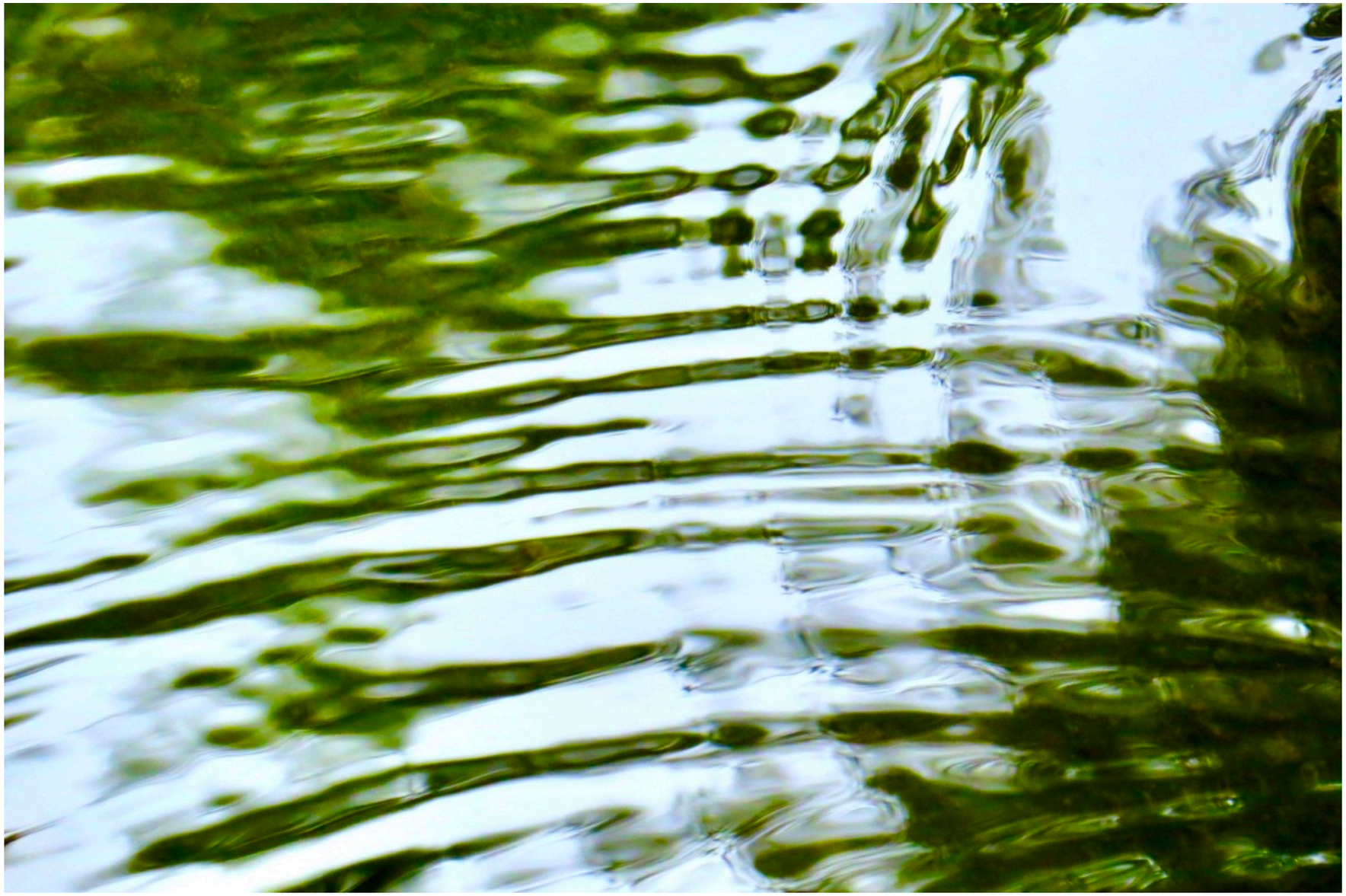
時は
交錯する
光と影のように
生と死を
繰り返し映し出し

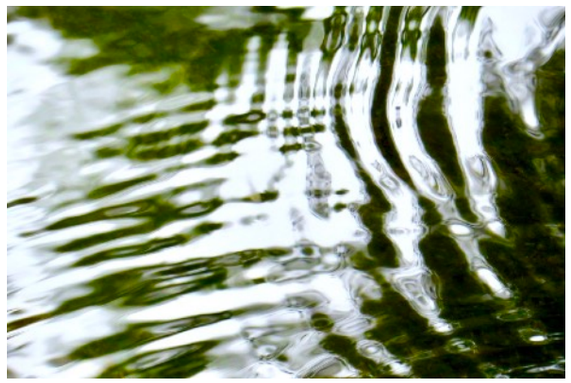
時は
奏でられる
音楽のように
夢と現を
互いに響かせ



※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-2930　　2022.9.16





※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

わたしから
あなたへ

伝わることば
伝わらないことば

わたしが
あなたと

約束することば
約束できないことば

わたしが
あなたを

操ることば
操れないことば

わたしと
あなたの

遊ぶことば
遊べないことば

わたしは
あなたと

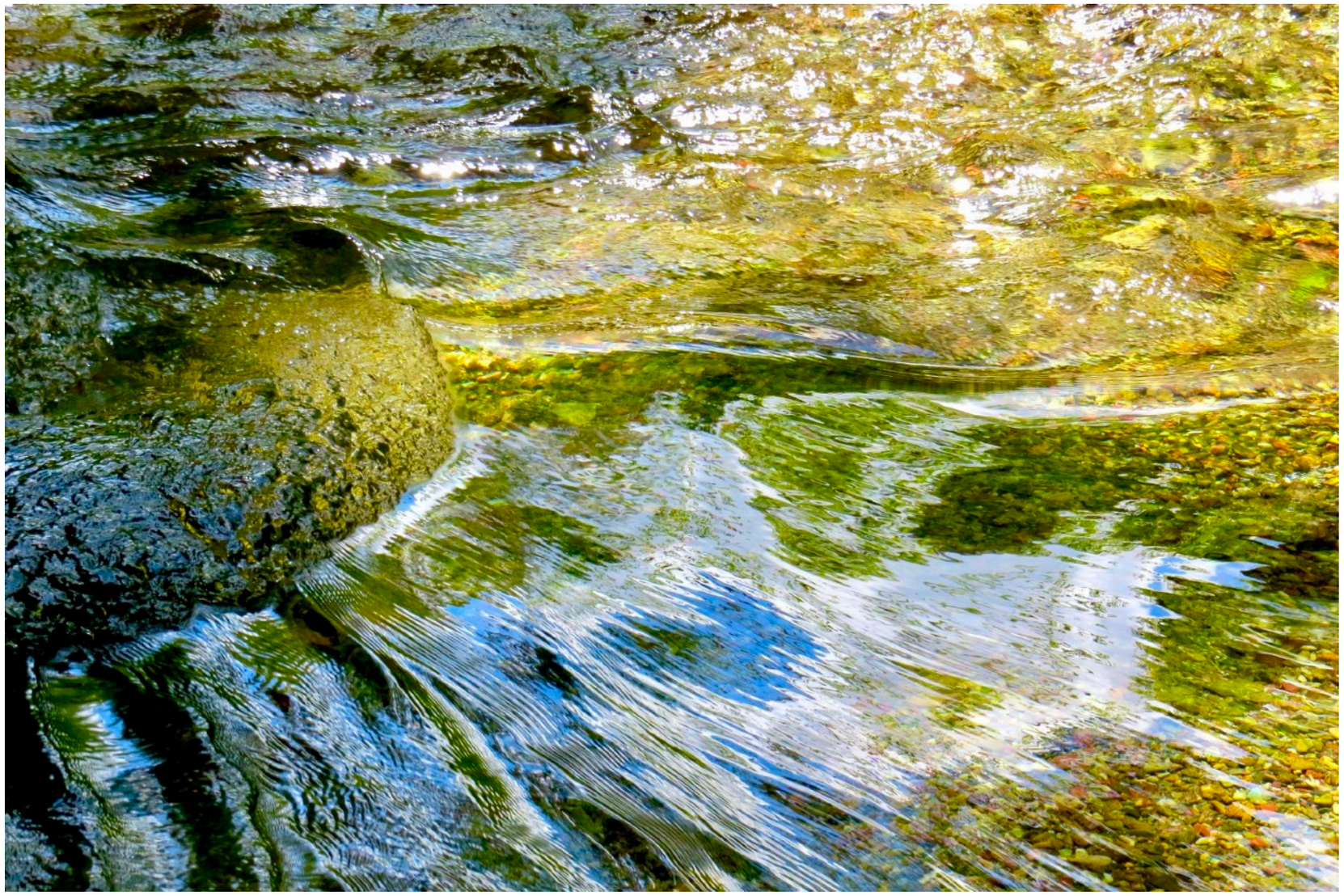
ことばで出会い
ことばですれ違い

わたしから
あなたへ

あなたから
わたしへ

こころはめぐり
こころは変わる

☆photopos-2931　　2022.9.17



※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

ひとりで
生まれ
ひとりで
死にゆく
そのあいだに

あなたがいて
あなたに出会えたという
その奇蹟のまえで

わたしの
ひとりは満たされ
わたしの
ひとりは祝福される

わたしとあなたは
無限遠点で向き合い
わたしとあなたは
矛盾を超えた円を描き

ひとりが
ふたりになり
ふたりが
ひとりになり

あなたがいて
あなたに出会えたという
その奇蹟を生きる

☆photopos-2932　　2022.9.18

※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

わからない
感情はないか

あらゆる感情の色が
使えるようにと
ひとは生まれてくる

わからない感情があるのは
その反対の感情の力を
見ないでいるからだ

赤には緑のように
色には補色があるが
ひとつの感情は
反対の色の感情をもっている

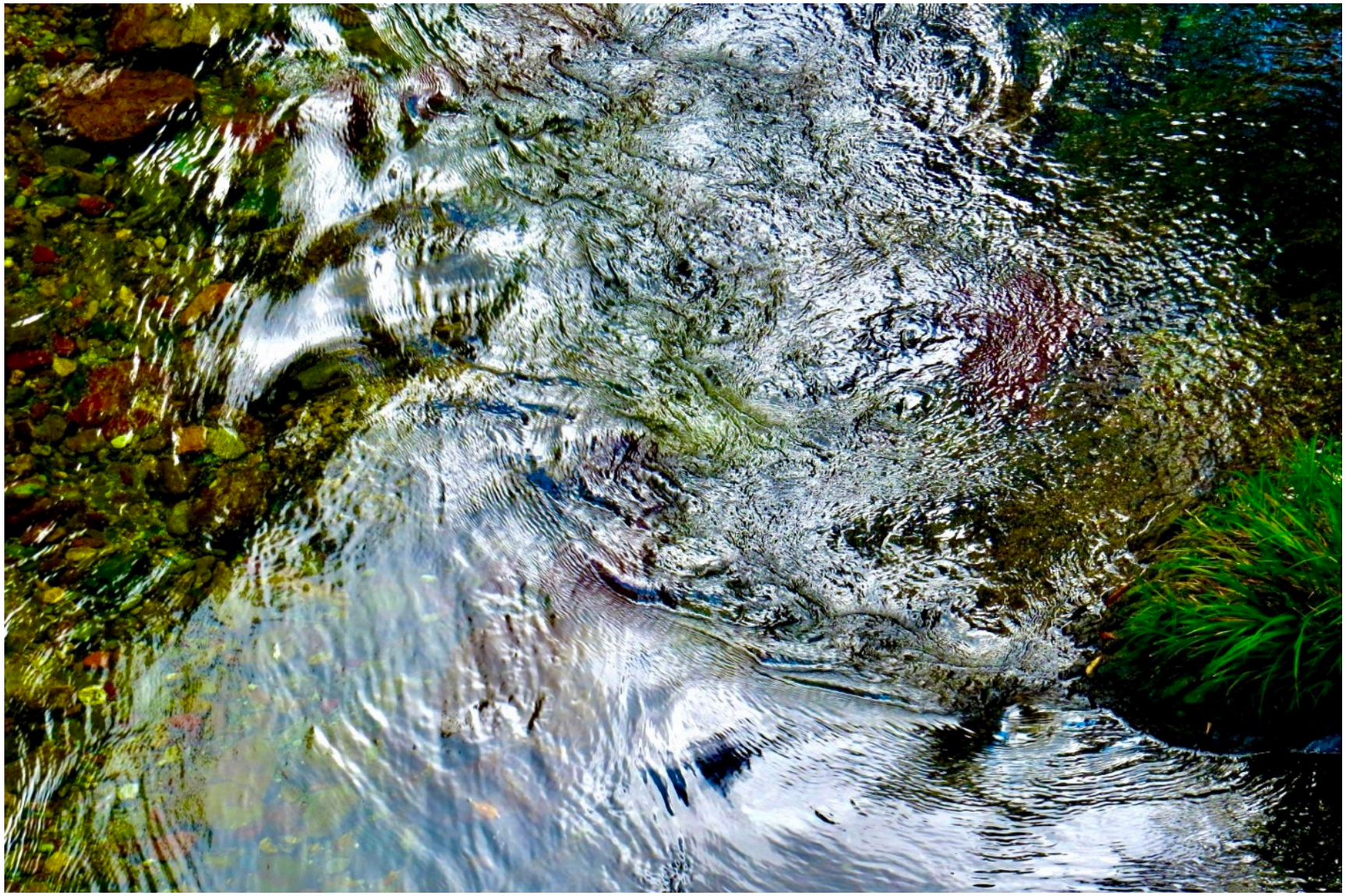
色相環のように
すべての感情は
環を形成しているのだ

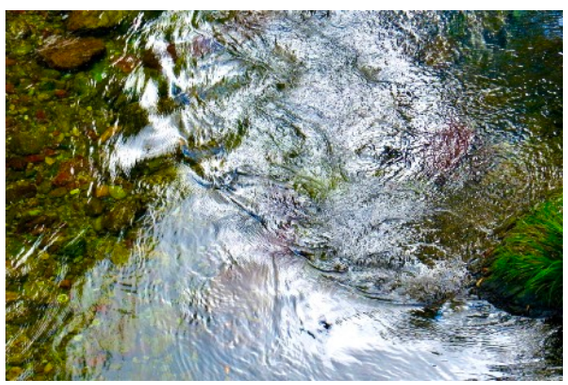
きれいは汚い
汚いはきれい

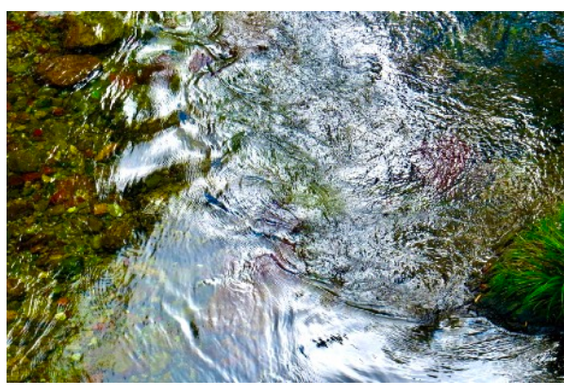
善きものだけを求めようとすると
そこに悪しきものの力が
無意識から強く働きかけてくる

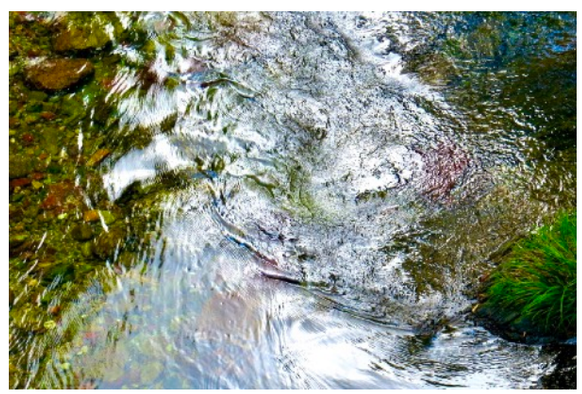
善きものを求めるならば
悪しきものの力を見つめ
それを変容させねばならない

☆photopos-2933　　2022.9.19









※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

魚には
じぶんのまわりにある
水のことが自明すぎるように
じぶんのことは
見えにくい

じぶんがどこにいるのかも
見えにくい
じぶんがなにをしているのかも
見えにくい
じぶんがなにを知っているのかも
見えにくい

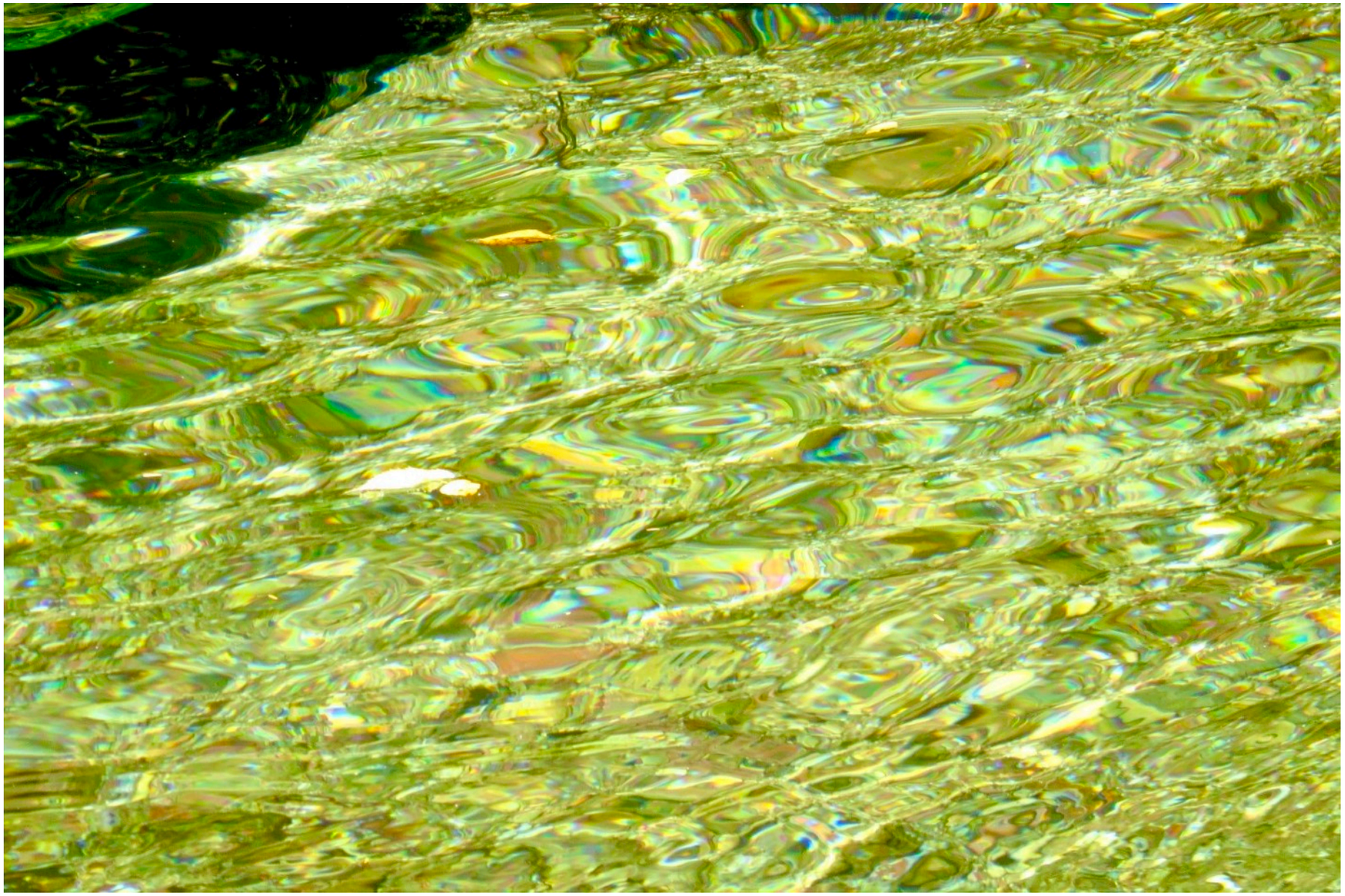
見るためには
じぶんでないものに
じぶんを映してみることだ

じぶんのいないところに
じぶんを置いてみる
じぶんのしていないことを
しているのをみる
じぶんが知らないでいることを
知るようにする

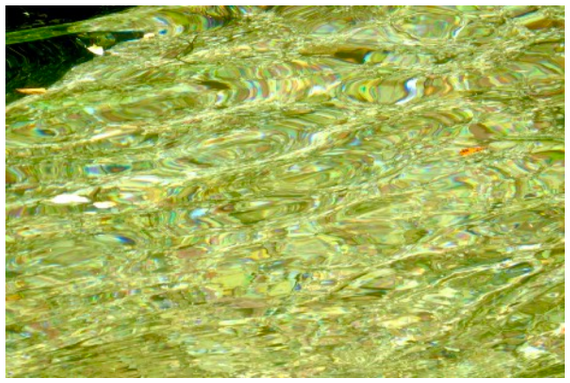
すると
じぶんの姿が
それまで見えなかった
べつの姿に見えてくる

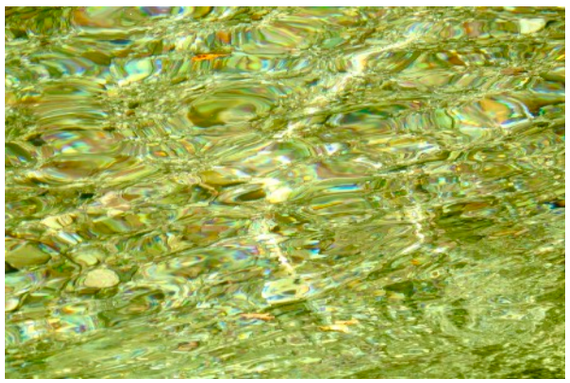
嘆く必要はない
それがわたしの
ほんとうのはじまりとなるからだ

☆photopos-2934　　2022.9.20



すべて
異質の
重なり
ひかる
水紋に
うつる
世界の
思念を
一つの
身体に
集めて
宇宙の
音楽を
奏でる
その手
その声
夢の如
天と地
むすぶ
曼荼羅





※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-2935　　2022.9.21

※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

季節の隙間で
不思議が遊ぶ

わたしの夢想と
森のイタズラが
不意に巡りあう

カラダヲ　ヒラクノダ
ココロヲ　ヒラクノダ
ジブンヲ　トジコメナイデ

世界の隙間で
秘密が溢れる

秘密は歌になり
歌は祈りになり
祈りは光を生む

ヒミツヲ　ヒラクノダ
コトバヲ　ヒラクノダ
セカイニ　トジコメナイデ

わたしの隙間から
姿をあらわしはじめる
まだ見ぬわたしのために

☆photopos-2936　　2022.9.22

※愛媛県松山市大浦・ふわり海岸にて

じぶんを
笑うためには
じぶんを
突き放さねばならない

けれど
じぶんを
突き放すということは
じぶんから離れることではない
演じるじぶんになることだ

深刻になるとき
それは演じられているのではない
じぶんに囚われているだけだ

掴んだものから
手を離さないでいることで
罠に捕まってしまっているのだ

じぶんを突き放したとき
そこから手を離して
罠に捕らわれてしまっていた
じぶんを笑うことができる

☆photopos-2937　　2022.9.23

※愛媛県松山市大浦・ふわり海岸にて

じぶんを見るために
ひとを見るとき

ひとの鏡にじぶんがうつる
そこになにが見えるか

光のなかでは光の種が育つ

愚かさが見えれば幸いだ
それは知恵の種となる
慢心が見えれば幸いだ
それは初心の種となる

じぶんを見ないために
ひとを見るとき

ひとはじぶんの影になる
そこになにが見えるか

影のなかでは影の種が育つ

愚かさが見えれば災いだ
それはみずからの愚かさの種となる
慢心が見えれば災いだ
それはみずからの慢心の種となる

☆photopos-2938　　2022.9.24

自由の翼はあるか
たとえそれが
見えない翼だとしても

決められた型のなかにも
自由はあるが

型を離れたところで
別の自由を求めるときにも

あらたな形が
つくりだされねばならない

その形もまたやがて
あらたな形へと
変わっていくだろうが

翼はそれぞれの自由を
羽ばたかせるためにある

見えない翼をもつ者よ
未知の空へと飛翔せよ！

※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-2939　　2022.9.25

※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

わたしの空間座標が
失われてしまうと

わたしは
どこにいるのか
わからなくなる

ここがどこかわからないとき
どこからきたのか
どこへ行こうとしているのか
わたしは迷子になる

わたしの時間座標が
失われてしまうと

いまがいつなのか
わからなくなる

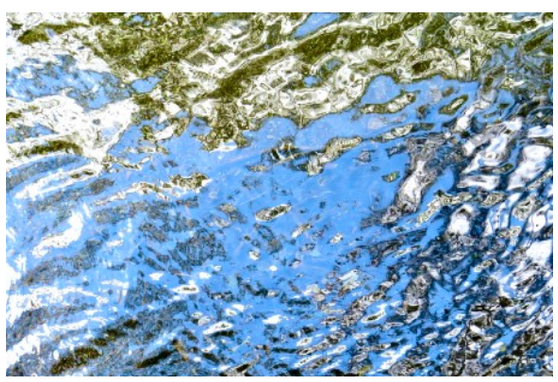
いまがいつか
わからなくなるとき
わたしの過去の記憶も
そして未来の表象も
描けなくなる

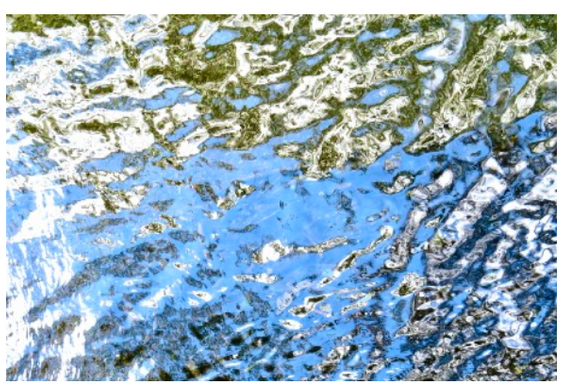
わたしの自我座標が
失われてしまうと

わたしがだれなのか
わからなくなる

わたしがだれか
わからなくなるとき
わたしはだれでもないまま
ただ明滅している意識になる

☆photopos-2940　　2022.9.26





※※愛媛県内子町小田深山渓谷にて

私はいつまでも
この私ではいられない

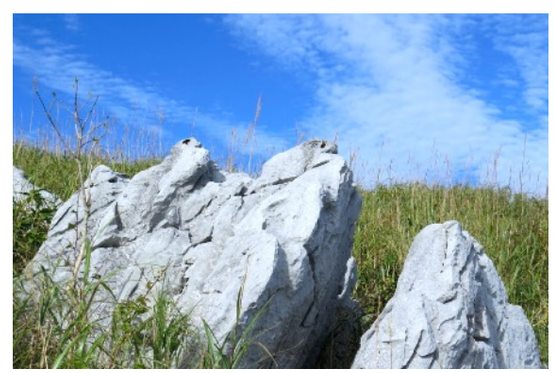
驚きがそうさせるのか
悲しみがそうさせるのか

私は私から
自由になるために
私は私を
破壊と創造に委ねよう

永遠の私と
刹那滅の私を
ともに詠いながら
私は変容してゆく

私と私でない私を
繰り返しながら
私を遊び続けるのだ

☆photopos-2941　　2022.9.27



※愛愛媛県久万高原町・四国カルストにて

年をとると
忘れることが
ふえてくるひとと
忘れることを
うまくおぼえるひとが
いるようだ

年をとると
後ろのことばかり
おもいだすひとと
先のことのほうへ
こころのむかうひとが
いるようだ

年をとると
小さいことを
気にするようになるひとと
大きなことを
気にするようになる人が
いるようだ

年をとると
わからないことが
ふえてくるひとと
わからないことが
わかってくるひとが
いるようだ

年をとると
見えているものが
見えなくなってくるひとと
見えないものが
見えてくるひとが
いるようだ

☆photopos-2942　　2022.9.28

※愛媛県松山市大浦・ふわり海岸にて

だれかに
愚かだと言われても

賢さが
心を分けてしまうなら
愚かなままがいい

愚かだとしても
心は分けられないから
境目にいる

境目にいることでしか
叡智は超えられない
叡智を超えるのは愛だから

だれかと
比べられても

比べることで
世界を分けてしまうなら
競わないほうがいい

どんなに競っても
世界は分けられないから
境目にいる

境目にいることでしか
今を生きることはできない
今を生きるのは不二だから

☆photopos-2943　　2022.9.29

※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

名づけられると
名に縛られる

じぶんではない名が
じぶんを使役する

じぶん探しは愚かだ
じぶんはいまここにいる

意味づけられると
意味に縛られる

定義づけられた意味が
世界を檻にする

定義に拘るのは愚かだ
意味はいまここで生きている

分けると
分けられたものに縛られる

分けられないものが
分けられて争いはじめる

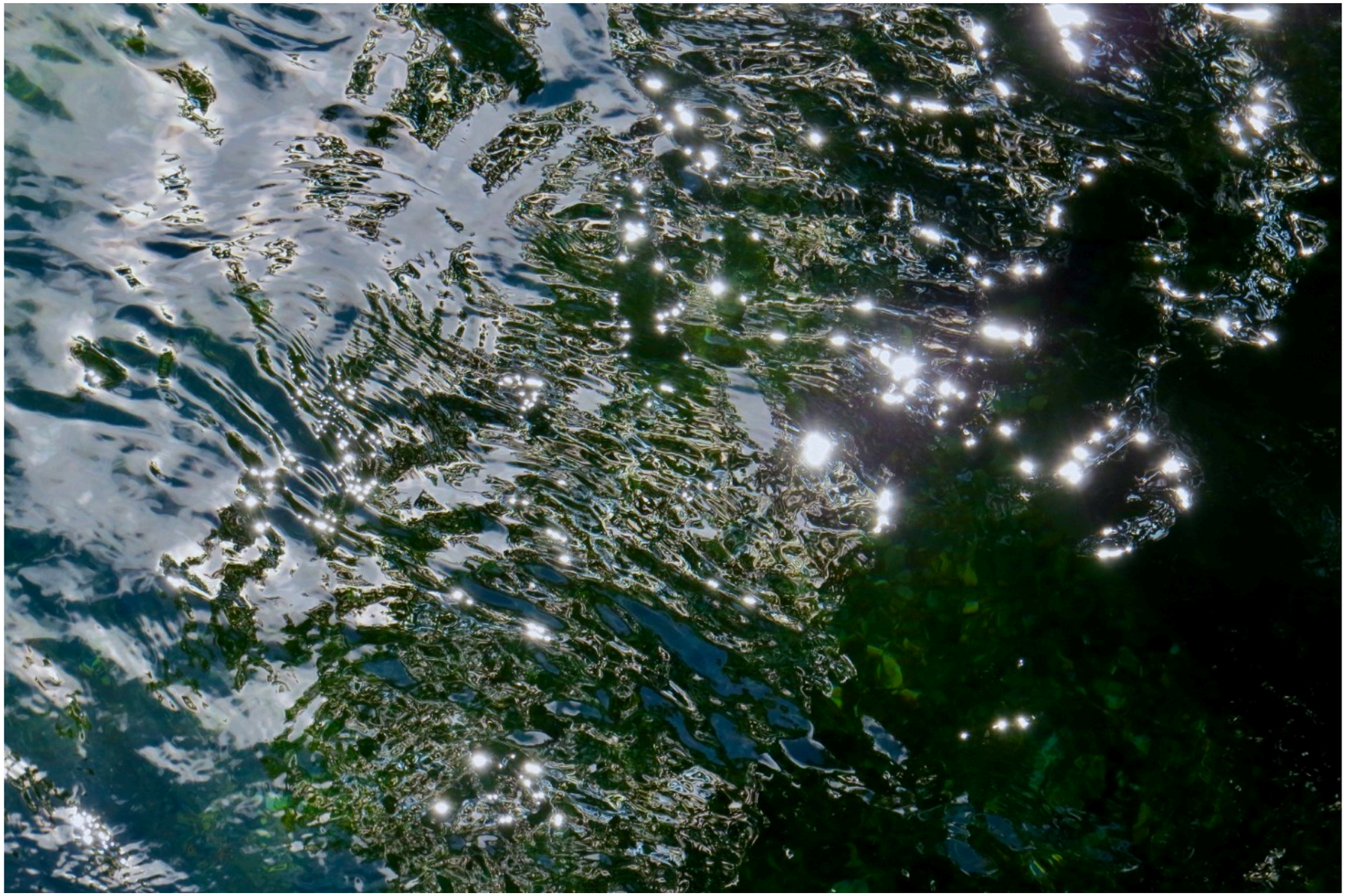
分けて分かるのは愚かだ
ひとつはふたつじゃない

測ると
数に縛られる

数えられないものが
数に変えられる

比較するのは愚かだ
ほんとうの数は生きられたイデア

☆photopos-2944　　2022.9.30



集中することは
水門を閉ざすことにもなる
魂を閉ざしてはならない

握りしめたままの手が
何も摑むことはできず
なにかを掴めたとしても
強く摑みすぎると潰してしまうように

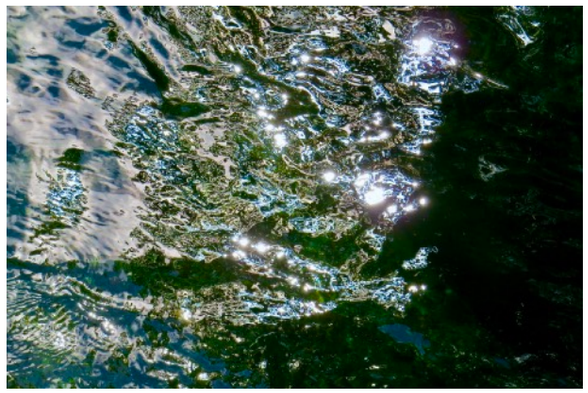
満たされた器には
なにも容れることはできず
器は空であってははじめて
容れることができるように

閉ざすことで
意味や定義に縛り付け檻にいれ
その生命を損なってはならない

器のかたちさえ決めないほうがいい
決められた形の器は
注がれるものを
決められた形にしてしまうから

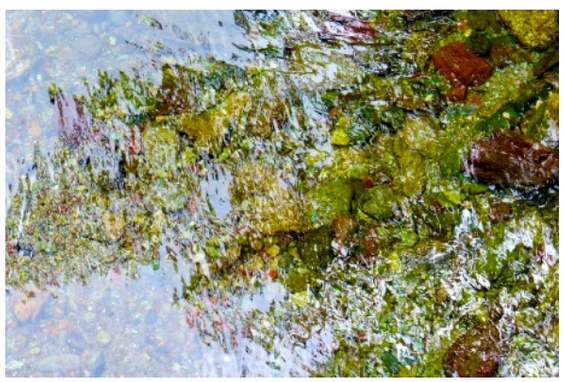
魂の水門は
呼吸のリズムのように
緊張と弛緩を繰り返しながら
ひらかれているのがいい

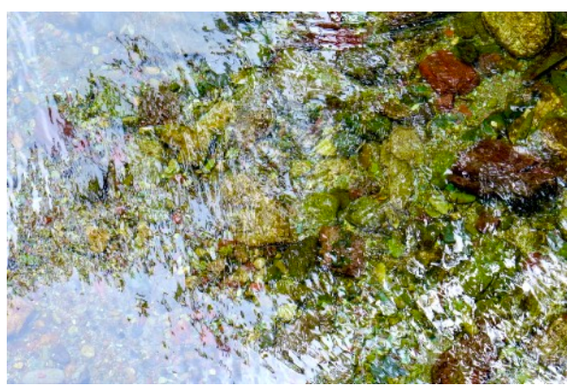
ひらかれていることでしか
受けとることのできない
かけがえのない贈り物がそこにはあるから

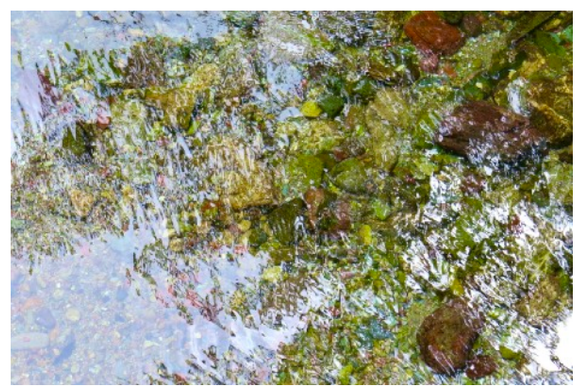


※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-2945　　2022.10.1







※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

こころをそのまま
ことばにすることは
できないけれど
ことばには
こころがうつされている

たとえそれがすべて
いつわりだとしても
いつわりのなかでこそ
みつかるこころもある

そして
ことばとこころは
あらたなたびにでる

せかいをそのまま
ことばにすることは
できないけれど
ことばには
せかいがうつされている

たとえそれがすべて
いつわりだとしても
いつわりのなかでこそ
みつかるせかいもある

そして
ことばとせかいは
あらたなたびにでる

☆photopos-2946　　2022.10.2

わたしは雲になる
雲になって
空に描き遊ぶ

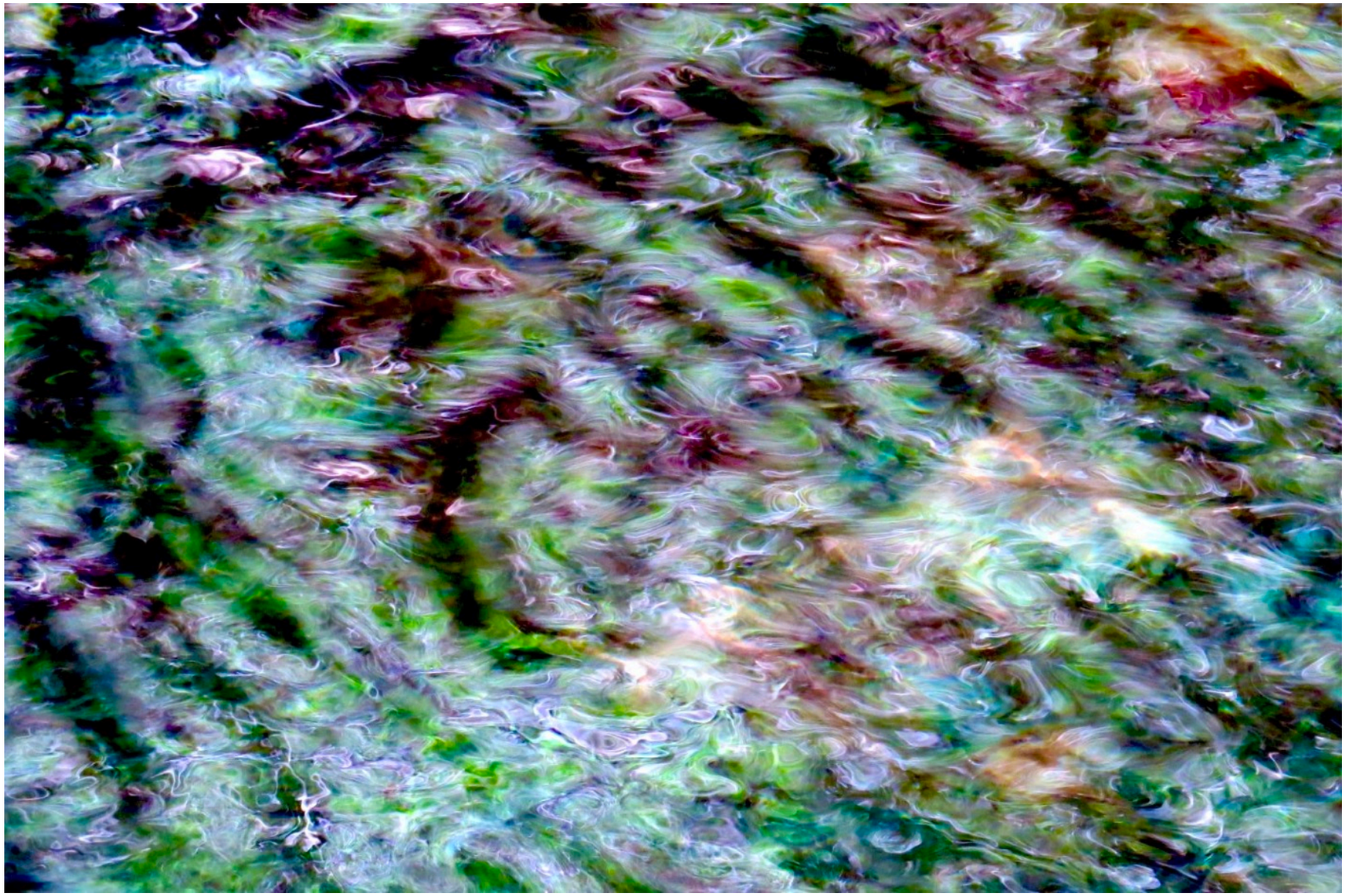
わたしは風になる
風になって
想像界を駆けまわる

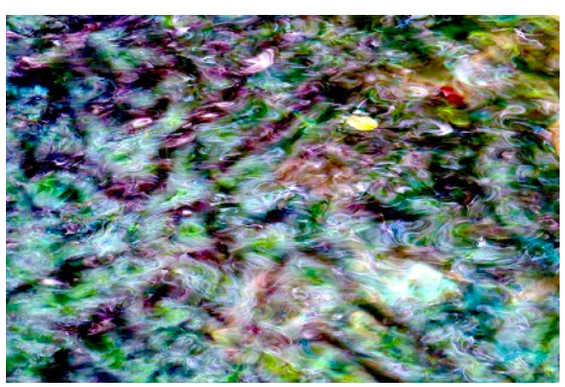
わたしは言葉になる
言葉になって
見えない心を伝え詠う

わたしは人になる
人になって
大地を遊歩し天を仰ぐ

※愛媛県久万高原町・四国カルストにて

☆photopos-2947　　2022.10.3





※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

誰が
歴史を
語るのか

メディアが
光を当てたものだけを語り
闇には口を閉ざすように

勝者は
歴史を語り
敗者は
歴史の闇に消える

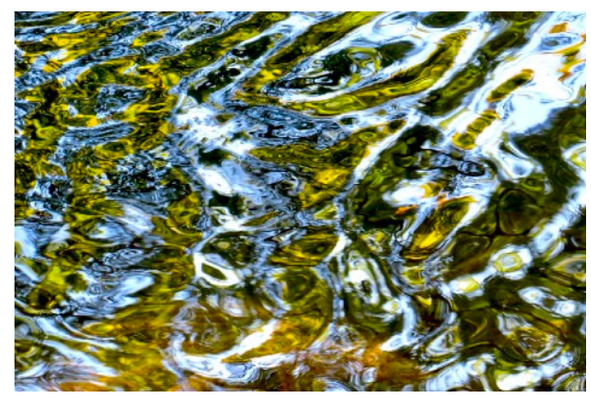
やがて
歴史家の眼が
みずからの姿を隠し
過去を再構成する時代を迎え

インターネットが
〈私〉という主人公を
かぎりなく増殖させ
だれでもがみずからを表現するように

いまでは
歴史家さえも
みずからの姿を現し
その〈私〉の見る歴史を語る

誰もが
じぶんを語る時代
歴史はどんな歴史に
姿を変えてゆくのだろう

☆photopos-2948　　2022.10.4



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

闇を知らない者は
ほんとうの光も知らない
光は闇を通してみずからを知る

おそれを知らない者は
ほんとうの勇気も知らない
勇気はおそれを通してみずからを知る

弱さを知らない者は
ほんとうの強さも知らない
強さは弱さを通してみずからを知る

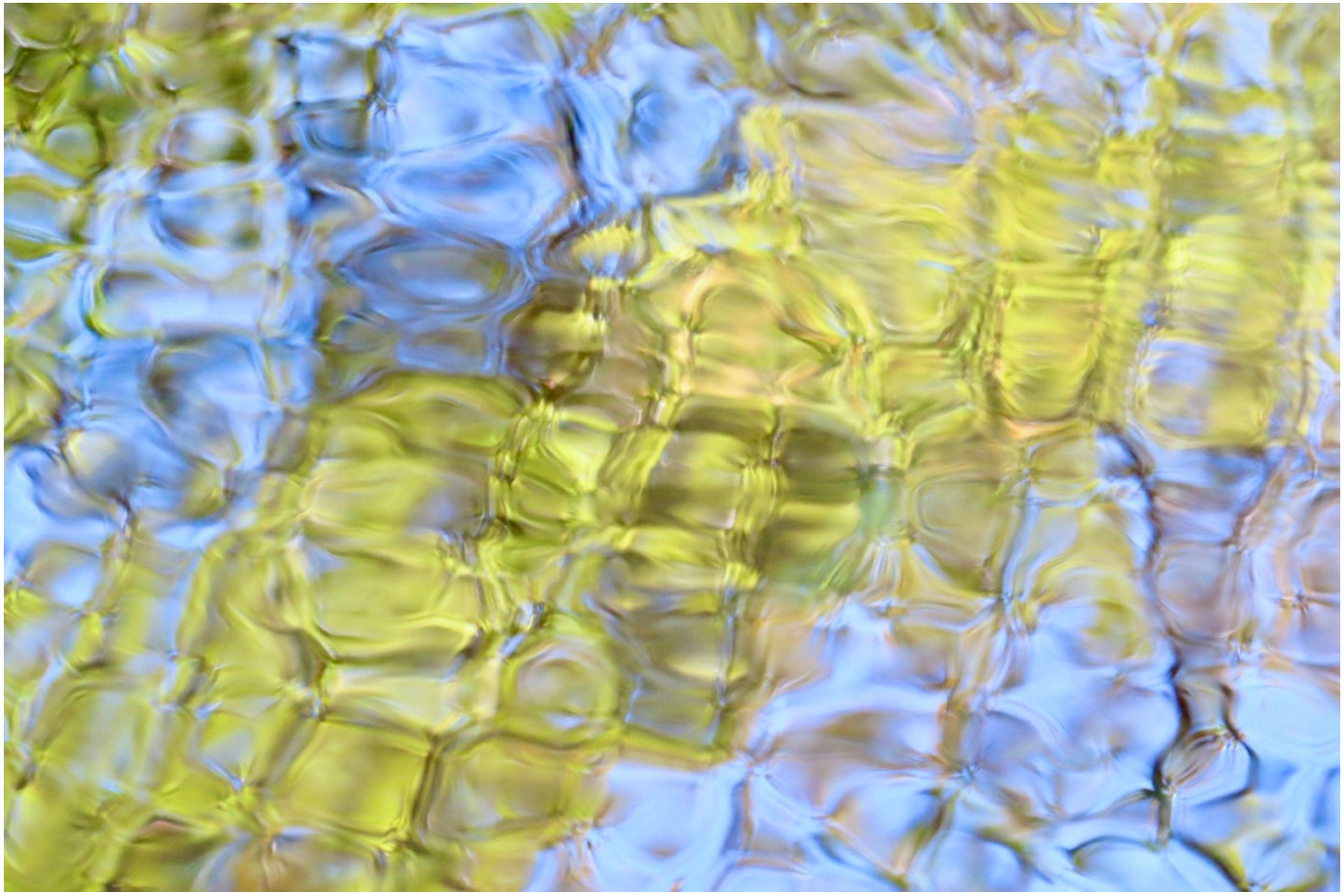
悲しみを知らない者は
ほんとうの喜びも知らない
喜びは悲しみを通してみずからを知る

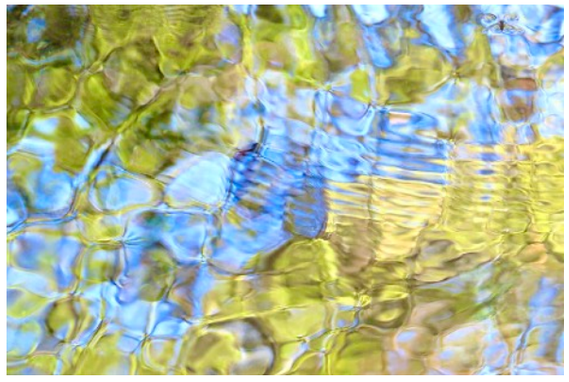
愚かさを知らない者は
ほんとうの知恵も知らない
知恵は愚かさをとおしてみずからを知る

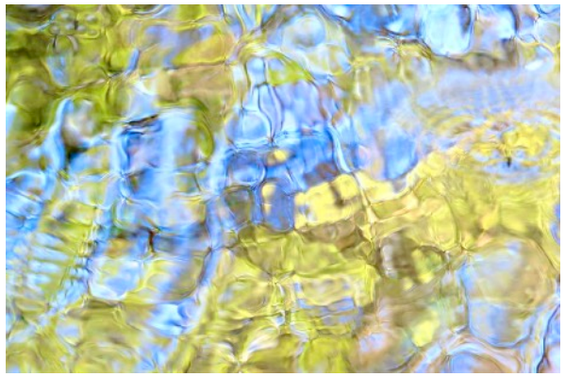
老いを知らない者は
ほんとうの若さも知らない
若さは老いをとおしてみずからを知る

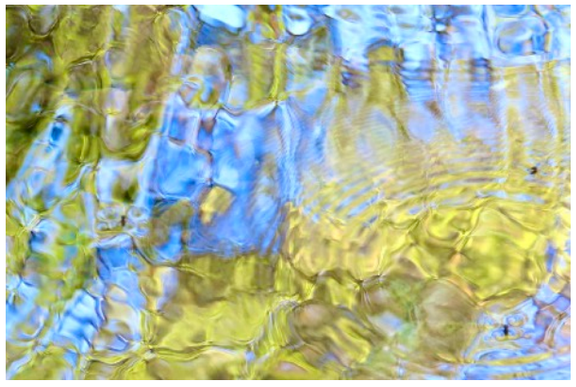
死を知らない者は
ほんとうの生も知らない
生は死をとおしてみずかからを知る

☆photopos-2949　　2022.10.5









※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

ときおり
意味がはなれてゆく

その不安と
解放感と

意味とは何か
わからぬままに

意味を追い
意味に追われ

意味を重ね
意味にとらわれ

意味を吸い
意味を吐き

意味は意味を生み
意味は意味を縛り

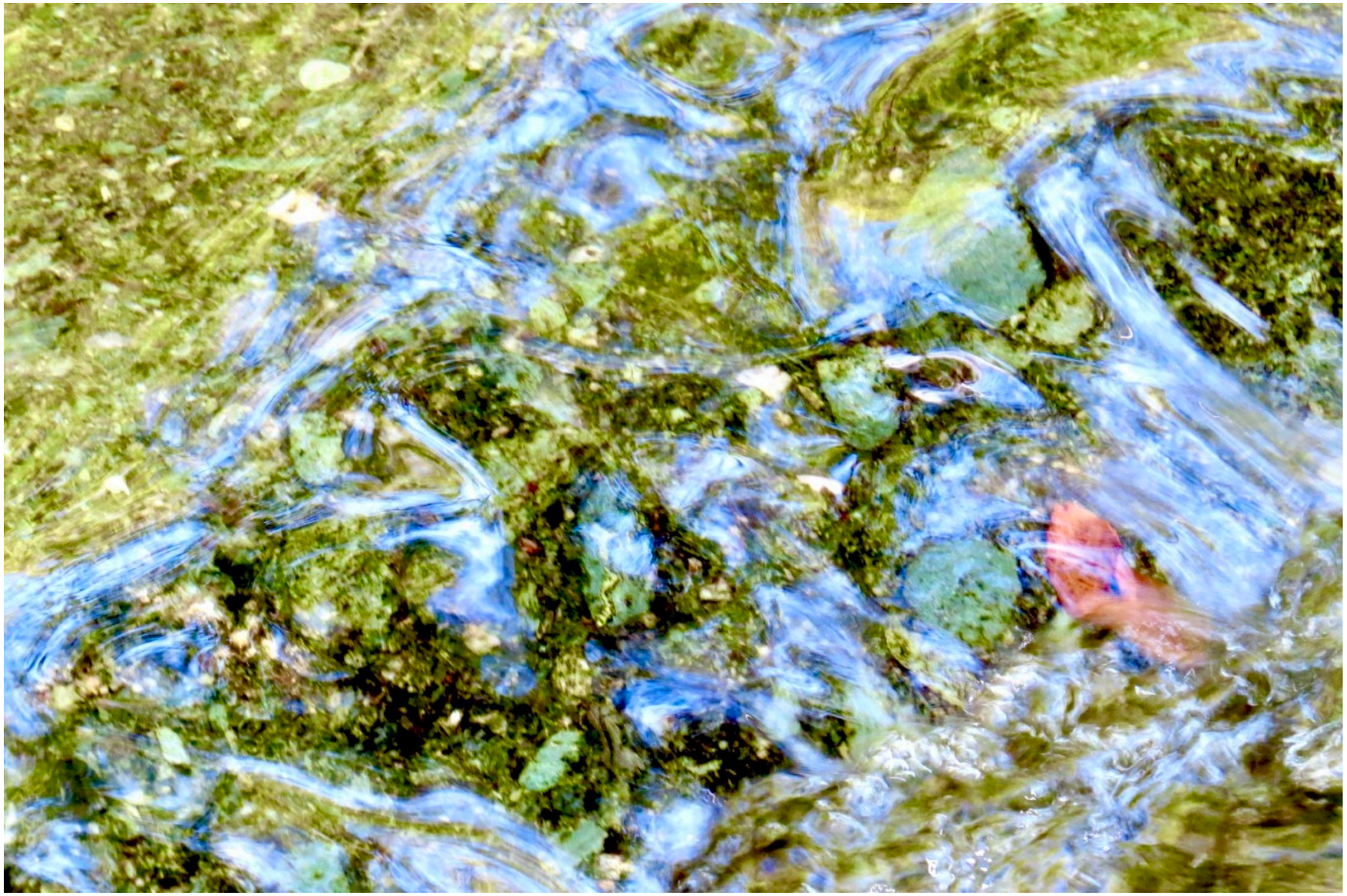
意味なきことにさえ
意味を塗り込み

そうするうちに
意味とは何かがわからなってくる

意味から
意味がはなれてゆくのだ

その不安と
重荷をおろせた解放感と

☆photopos-2950　　2022.10.6



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

わたしたちはいつのまにか
この生に投げ込まれ
そのわからなさのなかを
生きて死んでゆかねばならない

そのわからなさを
わかりやすくするために
宗教はうまれ
そのわからなさを
意味のなさとするところに
ニヒリズムは生まれる

わからないながら
その無常のなかを
かりそめのわかりやすさを求め
お金や力や評価のなかを
うまく泳ぎ渡っていこうともするが
やがてそのわかりやすさは
泡沫のごとく消え去ってゆく

わかりやすさに拠らず
わからなさを意味のなさともせず
無力な知識とあてどなき感情を抱えながら
生に呑み込まれず
病を苦にすることもせず
死を恐れることもなきように
わたしたちはどのように
生きてゆけばいいのだろう

わたしたちの問いは
岸辺のない海のように
果てなき時空へと繰り出す宇宙船のようだ